

研究データ管理システム GakuNin RDM を活用しよう



カクニン アールディーエム GakuNin RDMとは

GakuNin RDMは、国立情報学研究所（NII）が提供する、**研究データ等を保存・管理・共有**するためのサービスです。※本学は試験運用中

●主な機能

- ・クラウド上で学生や共同研究者と研究データを管理・共有
- ・プロジェクト単位でメンバーおよび権限が設定できる
- ・タイムスタンプサービスを用いた証跡管理（研究不正防止、バージョン管理）

詳細は
サポートポータル
をご確認ください



利用概要

●対象者

本学の正規学生、常勤教職員、名誉教授

●データ保存容量

1ユーザーあたり100GB ※
1ファイルあたり5.1GB未満

※1ユーザあたりの利用容量制限は、
プロジェクト作成者の容量から消費されます。

Q&A

Q1. 異動や退職後のデータは
どのような扱いになりますか？

A1. プロジェクトの管理者が機関を離れる場合は、**プロジェクトの管理者の権限を他のユーザに委譲しておく必要があります。**
委譲しない場合、他のユーザはプロジェクトにはアクセスできますが、管理者が不在となり、メンバー増減等が行えなくなります。

Q2. 研究データを公開したい場合は？

A2. 研究データについても、**お茶の水女子大学 教育・研究成果コレクション TeaPot**で公開することができます。
登録申請フォームよりご提出ください。
(<https://forms.office.com/r/eEcc0xdgij>)

利用方法

1. GakuNin RDM (<https://rdm.nii.ac.jp>) にアクセス
2. 右上の赤い矢印から「お茶の水女子大学」を選び「選択」をクリック
3. お茶大アカウントにてログイン

RDMとは

RDM（Research Data Management）とは、学術研究活動の過程で収集または生成された研究データを組織化して保存し、必要に応じてアクセスできるよう、適切に管理していくことを意味します。本学では、各種データは、原則として当該研究成果の発表時点から10年間保存*することが定められています。

●対象となる研究データ

《 必須 》

研究成果のエビデンスとして
再現性を担保するデータ
(例：論文に掲載したデータの元データ)

《 任意 》

研究に基づき外部に発表する論文及び研究成果を
導出するために必要とした各種データ全般
(例：実験・観察ノート、実験データその他の研究資料)

データの区分が「公開」・「共有」・「非公開」のいずれであっても、GakuNin RDMで保管できます。

*「国立大学法人お茶の水女子大学における研究活動に係る不正行為の防止及び対応に関する規程」第8条